

## 令和4年度第2回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

### 1. 開催日時

令和5年3月8日（水） 14：00～14：37

### 2. 開催場所

Web会議システム（事務局は独立行政法人農業者年金基金特別会議室から説明）

### 3. 出席委員

・明田 雅昭 委員長 ・菅原 晴樹 委員 ・徳島 勝幸 委員 ・枇杷 高志 委員

（全委員がWeb会議システムによる出席）

### 4. 議事

#### （1）報告事項

次期中期計画期間における運用受託機関等の選任について

#### （2）審議事項

バーベル型運用に係る運用評価及び当面の対応について

### 5. 概要

#### （1）次期中期計画期間における運用受託機関等の選任について（報告）

今年度が今期中期計画期間の最終年度であり、平成30年度に締結した運用受託機関及び資産管理受託機関（以下「運用受託機関等」という。）との契約が満了となる。これに伴い、次期中期計画期間における運用受託機関等について公募を行い、定性評価及び価格競争による総合評価の結果、三井住友信託銀行株式会社を選任したことについて報告した。

#### （2）バーベル型運用に係る運用評価及び当面の対応について

##### ① 運用評価

異次元緩和下における暫定的な対応として平成30年度から開始した中、野村BPI総合による代替運用として実施してきたが、昨年12月におけるイールドカーブ・コントロール（以下「YCC」という。）の修正等を背景として、債券市場は異次元緩和前の金利水準に戻りつつあり、市場環境の変化に適応していない可能性がある。

##### ② 当面の対応

金融政策の見直しについての観測に伴い、債券市場は不確実性が高まっていることから、日本銀行新執行部の発足後、一定期間は金融政策の方向性を見極める必要があると考えられる。

このため、バーベル型運用については、タイミングリスクの抑制を目的として一定期間は継続するが、野村BPI総合への回帰など、これに代わる新たな投資戦略について、事務局案を可能な限り早期にとりまとめた上で、来年度上期に審議することが了承された。

〔委員からの主な意見等〕

- バーベル型運用のパフォーマンス及び足許の市場環境を踏まえれば、バーベル型運用に代わる新たな投資戦略については、来年度上期の早い時期に審議する必要があると考える。
- 野村BPI総合へのパッシブ運用に回帰する場合、足許の市場環境を踏まえた暫定的な対応としては、以下のようなものも考えられるのではないか。
  - ・ 利回りがマイナスとなっている債券及びイールドカーブの歪みに伴い割高化している債券は保有せず、それ以外の年限の債券を保有する。
  - ・ YCCの対象ではない残存10年を超える債券は保有せず、残存10年以下の年限の債券を保有する。
- いずれにしても、新たな投資戦略の検討に当たっては、上記のような対応案と野村BPI総合に回帰した純粋なパッシブ運用とをよく比較する必要があるのではないか。

(以上)